

中学校【音楽科】「主体的・対話的で深い学び」の手引き

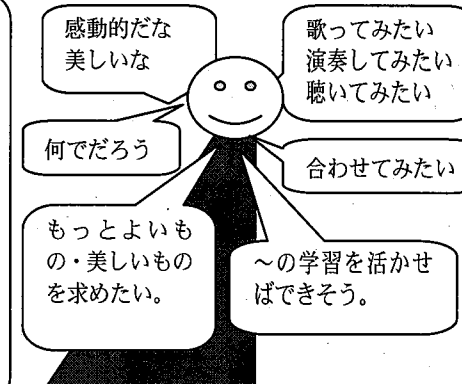
飛騨教育事務所

1 音楽科における「主体的・対話的で深い学び」のとりえ

- 「主体的な学び」・・・ 音や音楽を感じ取り、願う姿に対して課題意識と見通しをもって、試行錯誤しながら思いや意図をもって音楽で表現したり、よさを味わって聴いたりする学び
- 「対話的な学び」・・・ 教員や友達、地域の人など（自己内対話も含む）との音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを手掛かりに自己の考えや感性を広げる学び
- 「深い学び」・・・ 「音楽的な見方・考え方」を働かせて、課題解決に向けて試行錯誤を重ねながら、よりよい音楽表現を生み出したり、音楽のよさや美しさを見いだしたりする学び

音楽的な見方・考え方…「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

つかむ - 必然性のある課題を生み出す。 - 表現を工夫する（聴き合う）視点や表現方法を把握する。	【主体的な学び】 「新しい表現や美しいものとの出会い」「前教材・題材との違い」「実際の表現と思いや願いとのずれ」「意図的な比較演奏」など本時のねらいにあった導入の工夫をし、必然性のある課題を設定する。 - 小学校からの学びの系統性を把握し、これまでの学びを活用できるようにする。 - どんな要素同士のかかわりに着目するか（視点）、どのように音楽で表すか（方法や条件）を明確にし、見通しをもたせる。 
深める - 課題を追究する。 - 仲間と交流し、本時の視点について、試行錯誤し、表現を深めたり更新したりしながら追究していく。	【主体的な学び】 自ら進んで追究する学びになっているか - 音楽を形づくっている要素や要素同士のかかわりや仕組みを手掛かりに自分の考えをもつ場を保障する。 例) 上昇する旋律が繰り返されることから、荒れ狂う波の強さを表現したい。そのために息をたっぷり使ってクレッシェンドをつけて歌いたい。 - 自己課題や学習状況に応じて、方法やツールを選択できる環境設定を工夫する。 - 生徒の発言や工夫を拡大譜にまとめたり ICT を活用したりするなど、学習のプロセスを可視化する。 【対話的な学び】 他者との対話によって自分の考えを広げたり深めたりする学びになっているか - 根拠をもった考えをもとに対話できるよう、何について聴き合い・交流・工夫するのか具体的な視点を示す。 - 考えたことを実際に音で試したり、聴き合ったりして検討し合う場面を位置付ける。 【深い学び】 感じ方や考え方、表現が豊かになる学びになっているか - 音楽的な見方・考え方を働かせて工夫したことのよさや面白さを教師が具体的に価値付け、全体でそのよさを音で確かめるなどして共有する。 - 教師の問い返しや意図的な指導（抽出グループの発表や比較など）によって音楽的な見方・考え方を働かせ、自分の表現を見直したり、更新したりする場を位置付ける。
まとめる - 本時できたこと・分かったことや自己の変容を振り返る。 - 次時の見通しをもつ。	【深い学び】 - 題材や教材または、本時の最初の表現や感じ方と比べて、本時の視点についての変容や深まりが実感できるように音や音楽で確認する。 【主体的な学び】 - 工夫したことのよさや面白さを具体的に価値付け、何ができたか、どんなよさが味わえたか、どうしてできたのか、仲間と学ぶことのよさなど、認知面と情意面の両面から振り返る。 例) 授業の最初は～だったけど1時間を通して・・・」 - 題材を通して、日本の歌にもいろいろな歌い方が分かっておもしろかった。実際に歌ったソーラン節は、力強いリズムが繰り返される中、合いの手が入ってにぎやかな感じになるところから、漁をしている様子が目に浮かんだ。民謡の背景を知って聴くことでより身近に感じる事ができた。